

レジデンス・イン・森下スタジオ ヴィジティング・フェロー

エリザベッタ・ビサーロ パブリック・トーク

2013年2月7日(木) 15:00-16:30

スピーカー エリザベッタ・ビサーロ

【はじめに】

こんにちは。私の名前からお察しいただける通り、私はイタリアの出身ですが、アイルランドでダンス関係の仕事をしながら暮らすのは今年で10年目を迎えます。

本日のパブリック・トークではアイルランドのダンス界についてお話します。トークの前に皆様のお名前とお仕事に関する簡単な自己紹介をお願いできれば幸いです。

[10 数名の来場者による自己紹介あり]

ありがとうございました。それではまずアイルランドのダンスの概要についてご説明します。歴史についても少しだけ触れますが、主に現在の状況についてお話します。私のダンス・アイルランドでのプログラム・ディレクターとしての仕事上、アイルランドのダンスを外に開かれたものにするために、これまでに数多くの国際プログラムを行ってきましたので、とりわけアイルランドのダンスとヨーロッパとの関係に申し上げたいと思います。

【アイルランドについて】

アイルランドというと、美しい景色や城、パブで伝統的な音楽とアイリッシュ・ダンスを楽しみながらギネスビールを飲む場面を思い浮かべるのではないかと思います。実際に長年アイルランドで暮らしていると、何よりも雨がよく降る国だと痛感します(笑)

本題に入る前に、アイルランドの地理的な位置づけについて考えたいと思います。今回の来日の計画を立てる際に、日本とアイルランドには地理的な類似点があると気付きました。アイルランドはヨーロッパの最北西に位置し、その反対側には日本があります。実際、アイルランド人は日頃から、自分たちの国はヨーロッパ本土に対してかなり辺境にあると感じています。

アイルランドの歴史は波乱に満ちたもので、ご存知の通り南北に分断されています。北部は北アイルランドとしてイギリスの一部であり、南部のアイルランド共和国は EU に加盟しています。ちなみにアイルランド共和国は 1973 年より当時の EC に加盟しておりましたので、EU の初期からのメンバーであると言えます。

アイルランドは学者や聖人、そしてジェームズ・ジョイス、サミュエル・ベケット、ジョージ・バーナード・ショー、W.B. イェイツなど、英語圏の偉大なる文筆家を多く輩出しています。また U2 やシネイド・オコナー、ザ・コアといった著名なミュージシャンもアイルランドの出身です。文学や物語を愛する

国民として知られ、その結果、現在でも物語性に富んだ芸術作品が多く創られています。こうした傾向は、アイルランドのダンスの歴史と発展にも影響を与えています。

【歴史の浅いアイルランドのダンス文化】

1935年、アイルランド政府は踊れる場所を規制する「ダンスホール条例」を導入しました。この条例では、踊りは許可を受けたダンスホールのみで制限され、例えば個人の家で友人を招いて踊ることは禁じられました。当時流行っていたジャズなどの新しい踊りを、カトリック教会や愛国主義者がアイルランドの伝統文化にそぐわない不適切なものだと捉え、こうした条例を施行するよう政府に圧力をかけたのです。当初政府の考えは、この条例によって踊りをダンスホールのみで制限するつもりはなかったようですが、教会などによる圧力があまり強く、実質上ダンスホール以外での踊りは全面的に禁止されました。

なお、伝統的なアイリッシュ・ダンスで上半身を直立かつ静止させて、下半身のみ動かすのは、上半身しか見えないパブの窓の外からはまるで踊っていないように見せるためだったという説を聞いたことがあります(笑)。その正否は未だに確認出来ていませんが。

この「ダンスホール条例」により、ダンスに対する認識は大幅に遅れ、アイルランドでダンスが演劇や文学、音楽と並ぶ芸術の一形態として認められたのは2003年の「アート条例」によってです。こうした理由から、アイルランドにコンテンポラリーダンスのための高等教育機関は存在せず、未だに大きなダンスやバレエのカンパニーはありません。そのため、ダンスのプロを目指す人は16歳や17歳には海外に留学しなければなりません。地理的および言語的な理由から、ほとんどの人がイギリスに留学しますが、過去にはアメリカに行く人も多く見られました。最近ではオランダやベルギーに渡る人も増えています。いずれにせよ、一旦留学してしまうと、アイルランドに戻って来てもらうのは難しいです。

一方、皆様もご存知の<リバーダンス>という商業的に成功している伝統的なダンスカンパニーの主要ダンサーであるコリン・ダンも、伝統的な舞踊にコンテンポラリーダンスを融合させようとし、逆にコンテンポラリーダンスに伝統的な要素を取り入れているアーティストもいます。ヨーロッパ全体で、いまマイノリティーや伝統的な民族舞踊への関心が高まっていますが、アイルランドでもこのように伝統とコンテンポラリーの双方向的な融合が一部で見られます。

アイルランドではコンテンポラリーダンスを専門に上演している劇場はありません。ダブリン市内には<Project Arts Centre>という、あらゆるジャンルの作品を上演する劇場があり、コンテンポラリーダンス公演の80パーセントがそこで行われています。しかし小規模ならまだしも、大規模なダンスカンパニーや作品となると上演は難しいです。以前アイルランドのあるダンスフェスティバルがピナ・バウシュを招聘しようとしたら、あの規模のカンパニーの迎えられる劇場がなく、結局ピナ・バウシュのアイルランド公演は実現しませんでした。

【ダンス・アイルランドについて】

ダンスに対する認識が遅れているものの、コンテンポラリーダンスに興味を持つ人やインディペ

ンデントな形で続けるダンサーはいます。例えば私が勤務しています<ダンス・アイルランド>は、ダンス教育を継続的に行い、ダンスのコミュニティを活性化させることを目的に、ごく少数のインディペンデント(フリー)のダンサーや振付家たちによって 1989 年に<Association of Professional Dancers in Ireland>として設立されました。2006 年に<ダンスハウス>と呼ばれる稽古用のスタジオを設立した際に、現在のダンス・アイルランドに改称し、活動の対象をダブリンのみならずアイルランド全土とし、またダンスのプロのみならず一般の人にも門戸を広げました。

ダンス・アイルランドは会員制の組織として運営され、振付家やダンサー、ダンスカンパニーの他、ダンスに関心のある一般の人にも会費を払えば入会できます。会員はいろいろな特典が得られます。ダンスハウスのスタジオは通年、プロの振付家やダンサーに貸したり、夕方にはフリーの講師による一般向けの様々なジャンルのダンス教室に貸したりしています。

ここでダンスハウスの写真をご覧いただきたいと思います[会場のスクリーンに画像を映し出す]。ダンスハウスは 3 階建ての大きな複合施設で、スタジオは 1 階と 3 階に、大中小と 3 つのサイズで計 6 つあります。私が最初にダブリンのとあるダンスカンパニーで働き始めた時、こうしたスタジオはなく、教会や学校などの空きスペースを稽古場として借りましたが、どこも汚れていて寒く、床がダンスに不適切でした。そうした問題を解消するために、ダンスハウスでは清潔で暖かく、稽古に最適で安全な稽古場を提供すべく、各スタジオは日光が沢山入り、ミニマルかつ機能的に設計されています。スタジオの他、図書室や、Wi-Fi も完備されたパソコンでの作業が可能なラウンジ、調べものや打ち合わせに使える小さなオフィスもあります。また、通廊や空いているスペースでは、身体の動きに関心のある写真家やビジュアルアーティストに委嘱した作品を展示しています。

ダンスハウスのスペースはプロのダンス関係者と一般の人が利用していますが、私はそのうちプロ向けのプログラムを担当しています。プロ向けのプログラムには 2 つの柱がございます。1 つは「トレーニング・プログラム」で、もう 1 つは「ディベロップメント・プログラム」と呼ばれています。

トレーニング・プログラムでは、バレエやコンテンポラリーなど複数のジャンルを取り入れたクラスが毎日、年間 40 週間にわたって開催されます。場合によっては、フェスティバルなどに招聘されているアーティストをゲスト講師として招くこともあります。

ディベロップメント・プログラムでは、ダンスハウス内に 6 つのスタジオがあるという利点を活かして、国内外のアーティストによるレジデンシーなどが行われています。レジデンシーの場合、「New Movements」という、アーティストに自分の活動や作品を紹介してもらいインフォーマルなプレゼンテーション企画を行っています。また、ダンスフェスティバルとの協力事業として、アイルランドのダンスを海外のディレクターなどに紹介するイベントを毎年開いています。

さらに 2013 年には、ダンスハウスの開館以来過去 6 年間にレジデンシーを行った国内外のアーティストを招いた第 1 回のフェスティバルを開催しました。

【ダンス・アイルランドの国際交流事業について】

ダンス・アイルランドではダンスハウスの開館以来、国際交流事業を展開していますが、アイルランドの地理的な辺境性を考慮して、ここ数年は特に外に開かれた、アーティストによるモビリティ(移

動性)と交流を活発化させるプロジェクトに取り組んでいます。例えばアイルランドはアメリカ、とりわけニューヨークとの絆が太く、公演やトレーニング・プログラムのために同市を訪問するアイルランドのアーティストが数多くいます(ちなみにアメリカには、現在のアイルランドの人口に相当する450万人のアイルランド系の人があります)。そこでダンス・アイルランドでは、ニューヨークの〈ムーヴメント・リサーチ〉などのダンス関連団体とのコラボレーションを通して国際交流事業を開始しました。またもう1つの重要なパートナー国であるイギリスとの交流も行っています。

なお、ここで言う「国際交流」とは「相互的な交流」を意味します。つまり、アイルランドのアーティストを海外のレジデンスに派遣した場合、その相手国のアーティストをこちらのレジデンスで受け入れます。決まったフォーマットはなく、各アーティストの興味に沿った形でレジデンスの内容を組み立てます。唯一の条件は、滞在中に地元のコミュニティとの何らかの交流活動を行うことです。ダンス教室やトークセッションを開いても結構ですし、地元のアーティストとの共同創作を行っても構いません。

【Tour d'Europe(ツール・ド・ヨーロッパ)について】

ダンス・アイルランドが初めて EU から助成を受けた事業は、フランスのグルノーブルにある〈Le Pacifique〉という団体がリーダーとなった「Tour d'Europe」という大規模なプロジェクトです。

EU の助成システムについて簡単に説明します。EU 委員会では、EU の理想的な市民像を形成するための政治的なイメージを定める文化プログラムを6年毎に発表します。この文化プログラムでは、モビリティや交流を活発化し、それによってアーティストにとって物理的な境界のない、流動的かつ有機的な環境をつくらうとしています。そこで EU は、3~4 つ以上の国が関わっていることを条件に国際的なプロジェクトを支援しています。

「Tour d'Europe」は、ダンス・アイルランドが初めて EU の計5ヶ国で行ったプロジェクトで、参加したのは私たちの他、フランス、ドイツ、ポーランド、スペインの、それぞれ似たような団体です。〈Le Pacifique〉はフランスの振付開発センター、ドイツのハンブルクにある〈K3〉も振付センターであり、ポーランドのルブリンの〈Lubelski Teatr Tanca〉はまだ新しいダンスの劇場兼フェスティバル、そしてスペインのラ・コルーニャの〈Centro Coreografico Galego〉も振付センターです。10人の若手振付家がそれぞれの参加国に滞在するというプロジェクトでしたが、ここで重視されたのは、作品の創造過程ではなく、各々の振付家が「起業家」として独立するための訓練の場を提供することになりました。

ヨーロッパのダンス学校では、ダンス理論や作品創造のプロセス、あるいは稽古に時間を費やしますが、カンパニーの設立の段取りや、作品の上演を実現するために劇場等と共同制作する方法は教わりません。しかし、現在ヨーロッパでは助成金の額が減少してきているため、制作や会計の専門家を雇うよりも、アーティスト本人がそれらの知識を身につけることが必要となっています。

そこでこのプロジェクトでは、ダンス界で生き残るための基本的なスキルを学べるようにしました。参加した振付家たちは各国に1週間から10日程度滞在し、それぞれの受入団体は振付家たちのためにプログラムを用意しました。ダンス・アイルランドが振付家たちを迎えたのは2011年の5月の

フェスティバルの期間中でした。その間、彼等は制作者などから、作品を売り込む方法や報道用資料の作り方、ファンドレイジングの方法など、具体的な項目を学びました。

また振付家たちは各国におけるダンスの文化的および政治的な状況についても勉強しました。ヨーロッパの振付家たちは、自国の助成金のみに頼るのはますます難しくなっており、EU 内における複数の国の助成先への申請が可能となるよう、こまめに移動する必要があります。その際に、各国の特徴や違いを知っておくことが役に立ちます。

【Modul-dance(モジュール・ダンス)について】

この他に「Modul-dance」という、より大規模で 4 年間続いているプロジェクトがあります。こちらは <ヨーロッパ・ダンスハウス・ネットワーク(EDN)>が母体となり、2007 年から 2013 年にわたって EU の文化プログラムから助成を受けています。

ヨーロッパには「ダンスハウス」という、ダンス界を向上させ、あらゆるジャンルのダンスへの認識や理解を高めることを目的とする、プロのみならず一般向けの事業を展開する施設があります。現在のところ、ヨーロッパ中に 22 のダンスハウスが点在していますが、本プロジェクトのために一丸となって EU に助成金を申請しました。その結果「Modul-dance」は、400 万ユーロに相当する EU 最大の文化支援事業となりました。

参加しているダンスハウスは、それぞれ規模や活動内容、また自国から受けている助成金額も異なります。新作の自主製作公演を行っているストックホルムやパリの大規模なダンスハウスから、レジデンシーのみを提供できるダンス・アイルランドやキプロスの小さなダンスハウスまであり、本プロジェクトではこうした差異を長所として有効活用しています。

対象となるのは、中堅のインディペンデントのダンスアーティストによる創作過程です。その創作過程を、リサーチ、レジデンシー、創作、上演とモジュール(部分)に分けて支援しているので、「Modul-dance」と呼ばれています。

参加しているダンスハウスは相互的に協力し合い、それぞれで用意できるサービスを提供し、提供できないサービスは他のダンスハウスで補ってもらうシステムになっています。例えば過去 1 年間に私たちは異なる国の 4 人のアーティストを迎えましたが、ダンス・アイルランドで提供できるのは基本的にリハーサルやレジデンシーのスペースなので、彼等はリサーチと作品創作の初期の作業のためにダブリンに滞在しました。一方、私たちとパートナーシップを組んでいるデュッセルドルフやドレスデンのダンスハウスは大きな劇場を持っていますので、フェスティバルやダンスハウスの自主製作企画において作品上演の場を提供しています。各アーティストには 1 つのプロジェクトにつき少なくとも 4 つのダンスハウスが支えているということになります。つまりアーティストは、最低でも 4 つのパートナーの協力を得ながら作品創作に取り組めるのです。またこのシステムによって、アーティストのモビリティと知名度も高くなります。

【その他の国際交流事業について】

ダンス・アイルランドではこの他のプログラムとして、「カルテ・ブランシュ」「シンクタンク」「会議」

「ダンス映画上映会」「ダンスハウス滞在経験者意見交換会」「フェスティバル」を用意しています。

そのうち、ダンス人口の年齢層が比較的若いアイルランドの実情を反映した「カルテ・ブランシュ（元来は白紙委任状や自由に行動する権限を意味する）」についてご説明します。「カルテ・ブランシュ」では、若手のアーティストを1週間から2週間程度にわたって海外のダンスハウスに派遣し、滞在中にトレーニングを受けたり、フェスティバルを観たり、あるいはネットワークを広げたりと、時間を好きに利用してもらいます。ダンス人口がまだ限られていて、歴史も浅いアイルランドのダンス界にとって、若手が海外の多様なダンス文化に出会えるこうした機会は貴重です。

また、先日終えたばかりの第1回「Modul-Dance」のフェスティバルは、EU関連のフェスティバルなので、EUが予算の半分を負担してくれました。こうした支援が受けられなかったら、事業の内容はアイルランド国内に留まり、また海外のアーティストを招聘したり、彼等の作品を紹介したりすることも出来なかったと思います。私たちにとって国際交流事業は、海外から新しいダンスを受け入れ、またアイルランドのアーティストと共同作業をする海外のアーティストを招き、従来の活動を越える新たなプロジェクトを可能にしてくれるのです。

続いて「E-Motional」プロジェクトについてお話ししたいと思います。ルーマニアのガブリエラ・テュードル財団のディレクターであるコスミン・マノレスクさんが2012年3月に来日した時のパブリック・トークでこのプロジェクトについて説明していると思いますので私の方では手短かに申し上げますが、これはコスミンさんをリーダーとし、ダンス・アイルランドも関わっている、モビリティの促進を目的とした2ヶ年のプロジェクトです。参加しているのは、ヨーロッパにおいて地理的に有利とは言えず、またダンス・コミュニティが小規模で、他国のダンス・コミュニティとの交流が希薄なルーマニアやアイルランド、キプロス、ラトビアといった国々の団体です。こうした国々の間でコラボレーション活動を促すために発足したプロジェクトですが、コスミンさんの方ではその第2弾を考えていると聞いていますので、今後さらに発展して行くと思います。

【ダンス・アイルランドが国際交流事業を行う理由】

ダンス・アイルランドでは何故これだけの国際交流事業を行うのでしょうか。先程申し上げました通り、アイルランドはコンテンポラリーダンスの歴史がまだ浅い島国なので、国際的なパートナーとの関係を築き、それを発展させて行くことが大切なのです。また、往來を活性化させることにより、アイルランドのアーティストが孤立感を覚えないようにし、さらにEU諸国との共同プロジェクトにより、アーティストたちが新たな可能性や関係性を見出せるようにしたいのです。

具体的な例を挙げますと、ダンスハウスでの2週間にわたるレジデンシーのため、あるアメリカ人の振付家を招聘したことがあります。彼女はアイルランドのアーティスト数人と作品を創った後、アメリカに帰国しました。そして一緒に作業をした2人のアイルランドのアーティストと引き続き創作活動を行いたいということで、その2人をアメリカに呼び寄せることになりました。彼女はアメリカで、また参加することになったアーティストたちはアイルランドでそれぞれ助成金を得て、無事にニューヨークでの公演を実現しました。さらにその後、完成した作品はアイルランドでのフェスティバルに招かれました。私たちが種を蒔くだけで、何かが芽生えるという好例です。

このように、国際交流事業には何かを起動させる力があり、その波及効果のからさらに何かが生まれます。またいまの例を見ても、プロジェクトというものは、必ずしも組織が企画・運営するのではなく、アーティスト個人によって作り出される場合があります。国際交流事業における組織の役割は、プロジェクトを発動させるツールを提供し、アーティストがさらに多くの活動を推進するための支えになることではないかと思えます。

【アイルランドのダンス界への助成システム】

アイルランドのダンス界を支えている助成金の約 90 パーセントはアーツ・カウンシルからですが、アーツ・カウンシルに大きく依存しているこの状況には問題があります。特に不景気に陥っている現在、政府の財政は逼迫し、その結果芸術への助成総額もどんどん減少しています。

ダンス界に対するアーツ・カウンシルからの助成金の種類は次の通りです：

- | | |
|------------|--|
| ① 年間助成 | 主にダンスカンパニーなどの団体に対する助成。 |
| ② プロジェクト助成 | アーティスト個人による単体のプロジェクトへの助成で、上限は 4 万ユーロ。 |
| ③ レジデンシー助成 | 主にダブリン以外で活動するアーティスト向けのレジデンシー用の助成。上限は 1～2 万ユーロ前後。 |
| ④ ダンス奨学金 | 主に若手向けの助成。 |

また、助成金の残りの 10 パーセントは、ダブリン市議会など地方自治体が支給しています。

この他に、<Culture Ireland>という、アイルランドのアーティストが海外で活動する際に、また主にフェスティバル期間中に海外のプロモーターがアイルランドを訪問する際に助成を行う政府機関があります。こちらはダンスだけでなく、あらゆる芸術ジャンルが対象となっており、アーティストのモビリティの促進に大きく貢献しています。ただし、助成の対象となるのは作品の上演であり、リサーチ活動は除外となります。

【アイルランドのダンスを支えるその他の組織】

アイルランドの人口である 450 万人のうち、3 分の 1 にあたる 150 万人がダブリンに密集していることもあり、ほとんどのダンスがダブリンに集中しています。ダブリン以外には、アイルランド南部のコーク、西部のゴールウェイ、中西部のリムリックといった都市にもダンスのコミュニティがあります。各都市に、ダンス・アイルランドに似ていますが、より規模の小さなダンス関係のサポート・オーガニゼーションがあります。例えばコークの<Firkin Crane>、ゴールウェイの<Galway Dance Project>、リムリックの<Daghda>です。それぞれが独自に活動を行っていますが、ダンス・アイルランドでは彼等とパートナーシップを築いています。例えば、ダブリンのダンスハウスでのレジデンシーを行っているアーティストには、これらの団体を訪問するように勧め、逆にこれらの団体から海外のアーティストを招聘して欲しいという依頼があれば、それに応えるようにしています。

また、アイルランドのフェスティバルとして、ダブリンの<Dublin Dance Festival>、中部の都市バークの<If Only>、中南部にあるティペラリーの<Tipperary Dance Festival>、東南部のキルケニー

の〈Kilkenny Arts Festival〉、コークの〈Cork Midsummer Festival〉、ダブリンの〈Dublin Fringe Festival〉がありますが、コンテンポラリーダンスダンスに特化しているのは国際的な〈Dublin Dance Festival〉のみで、それ以外は他のダンスや演劇、音楽など複数のジャンルを対象としています。

【意識の変革の時代】

先程申し上げました「E-Motional」プロジェクトでの特徴の1つは、各国に於いて、国内の3団体と連携する体制が作られ、アイルランドはダンス・アイルランドの他、〈Dublin Dance Festival〉と、ダンスの修士課程のあるリムリック大学が参加しました。実はアイルランドでのこうした国内のダンス関連団体による連携は、何故かEU諸国との国際的な連携よりも難しく、機会が少ないのです。

その主な理由は、1990年代の終わりから2000年代半ば頃まで続いた「ケルトの虎」と呼ばれたアイルランドの好景気により、国内のダンス関係の各団体が潤沢な資金を得て、個別に活動が可能な環境にあり、互いに資金等をシェアする気がなかったからではないかと思われます。

しかし不景気である現在、私たちは国内的にもっと協力し合わなければならないので、意識を変えてゆくことが求められていると思います。

以上をもちまして、私の話は終わります。本日はありがとうございました。

(以下、質疑応答省略)